

## 第5学年 社会科学習指導案

日 時 平成22年9月30日(木) 5校時  
学 級 5年3組 男子17名 女子22名 計39名  
場 所 5年3組教室  
授業者 教諭 富永 滋

### 1 単元名 工業生産を支える人々「世界とつながる自動車」

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

本単元は、内容(2)のウ「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」を受けて設定されている。

我が国は、工業生産がさかんである。工業は、人々の暮らしと密接に関連し、工業製品は人々の暮らしを豊かにする為に開発されてきた。我が国では、機械工業の生産額が一番多い。原材料を加工し、その形や性質を変えて生活や産業に役立つ製品をつくり出している。その中でも自動車は生産額や輸出額において大きな割合を占め、我が国の重要な工業製品となっている。前単元では、自動車工業を事例として取り上げ、工業生産に従事する人々の工夫や努力について学習してきた。さらに本単元では、海外へ輸出される自動車のゆくえや海外で生産される自動車について追究する中で、運輸や貿易の働きに気付かせるとともに、これからの自動車づくりの課題をとらえられるようにするのがねらいとなる。

##### (2) 児童について

本学級の児童は、社会科の学習に集中して取り組んでいる。課題に対して最後まで粘り強く取り組む姿も多く見られる。アンケートの結果、社会科の学習を「好き・どちらかという好き」と答えた児童は92%であった。好きな理由としては、「グラフや表から変化や違いを見つける」「教科書や資料集から答えを見つける」といった調べ学習が楽しいというものが多かった。

5学年の1学期には、日本の農業・水産業について、グラフや地図などの資料の情報を読み取りながら学習を進めてきた。これまでの学習を通して、資料活用の技能においては変化・傾向について気付いたことや分かったことの指摘等、基本的な読み取り等が徐々にではあるが向上してきている。しかし、資料から課題に沿った必要な情報を得たり、その情報をまとめて表現したりする力については、個人差が広がっている感は否めない。資料の内容が身近なものから離れ、また、資料が複数になるにつれて、苦手意識を強めてしまっている児童も見られる。社会的な見方や考え方については、教師側の意図的な発問により、比較や関連付けをしながら考えようとする児童が増えつつある。しかし、単元全体を通しての比較・関連付けが十分ではないので、思考のつながりを意識した支援が必要である。

##### (3) 指導にあたって

指導にあたって、特に工夫したい点は次の3点である。

###### ① 視点が明確な資料提示を行う。

第5学年では、直接見学できない地域について学習することが多いため、資料の収集や活用の仕方、様々な統計資料や分布図の読み取りが必要とされる。そこで、内容やポイントを絞った分かりやすい資料を提示する。その際、見方や読み方を段階的に指導するとともに、調べる視点を明確にさせながら比較や関係付け等を調べさせる。

###### ② 思考を深める発問の組み入れ

外国での日本車の生産が多い理由を考えること等、社会的事象の意味を考えさせる。

###### ③ 評価の工夫

評価活動に関わっては、終末の振り返りで気付きを中心に書かせる。その気付きは、次時以降の授業の導入等で生かしていくようにする。

(4) 活用させたい「知識・技能」

既習事項【何を】	既習事項の活用【どのように】
<p><b>【知識】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料は輸入に頼っていること。</li> <li>自動車の原材料である鉄も輸入に頼っていること。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取り           <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表の多少、増減、変化、違いを指摘する。</li> </ul> </li> <li>調査           <ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた視点をもとに、資料を読み取る。</li> </ul> </li> <li>表現           <ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【思考・判断】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界各国での日本の自動車工場の展開や、日本の貿易の特色・問題について考える。</li> </ul> <p><b>【技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフから変化や傾向を指摘する。</li> <li>海外生産がふえた理由について「原因」と「海外生産のよさ」という視点で、資料の読み取りをする。</li> <li>これからの日本の自動車づくりについて、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>

3 単元の目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○ 世界各国での日本の自動車工場の展開や、日本の貿易の特色・問題について関心をもち、意欲	・世界各国での日本の自動車工場の展開や、日本の貿易の特色・問題について関心をもち、意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断	○ 日本の貿易の問題に気付き、これからの貿易の進め方について考えることができる。	・日本の貿易の問題に気付き、これからの貿易の進め方について考えている。
観察・資料活用の 技能・表現	○ 主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移をグラフや地図などの資料を活用して具体的に調べることができる。	・グラフや地図から、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	○ 日本の貿易の特色や問題をとらえるとともに、自分たちの暮らしを支えている貿易の大切さを理解することができる。	・日本の貿易の特色や問題、自分たちの暮らしを支えている貿易の大切さを理解している。

4 単元の指導・評価計画（5時間）

段 階	時 間	目 標	○…学習課題 ・…主な学習活動 ☆…主な支援の手立て	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
とらえる	1	日本の自動車の輸出がどのように行われているかをつかむとともに、地球儀を使って、輸出国の位置や日本からの距離・方位を調べることができる。	○日本の自動車の輸出は、どのように行われているのだろう。 ・自動車の輸出の方法を予想し合い、船長さんの話をもとに、自動車を外国へ輸送する仕事について調べる。 ・地図と地球儀の特徴をまとめ、日本の自動車の主な輸出国の位置や、日本からの距離・方位を地球儀で調べる。	地球儀を使って、世界各国の位置や日本からの距離・方位を調べている。 【技能・表現】 (ノート・発表) 自動車の輸送を通して日本とたくさんの国々とのつながりを理解してい

		☆「学びのてびき」を活用し、具体的な地球儀の使い方を示す。	る。 【知識・理解】 (ノート・発表)	
ふかめる	2 本時	日本の自動車の外国での生産の様子を調べ、貿易による世界各国との結び付きや協力について考えることができる。	○日本の自動車の外国での生産は、なぜ増えてきたのだろうか ・自動車の生産台数や輸出台数の変化をグラフから読み取り、海外生産が増えてきたわけを考える。 ・外国との関わりを考えながら、これからの日本の自動車生産について、自分なりの意見をもって話し合う。 ☆なぜ外国で自動車を作るのか考えさせるとともに、これからの自動車作りのあり方について考えさせる。	自動車を海外で生産することのよさをもとに、これからの自動車生産の進め方について考えている。 【思考・判断】 (発表・ノート)
	3	グラフや地図をもとに、日本ではどんな物が、どのように輸入された、輸出されたりしているかを調べることができる。	○日本の貿易は、どのように行われているのだろうか。 ・日本全体の主な輸入品や輸出品と、その移り変わりについて調べる。 ・日本の輸入品・輸出品の特色や、主な貿易相手先について分かったことをまとめる。 ☆自分の視点は何の資料からどの資料から調べればよいのか確認させる。	グラフや地図をもとに、主な輸出入品や貿易相手先、貿易額の推移などを調べている。 【技能・表現】 (発表・ノート)
	4 5 ・ ひろげる	日本の貿易の特色や問題をまとめることを通して、これからの貿易の進め方について考えをもつことができる。	○日本の貿易の特色をまとめて、これからの貿易について考えよう。 ・輸入品や輸出品がどのように輸送されているかを調べ、日本の貿易の特色についてまとめる。 ・日本の貿易の特色や問題について考え、これからの貿易の進め方について、自分なりの意見をもって話し合う。 ☆貿易の大切さや問題を具体的な品物を例に挙げて、自分の考えを持たせる。	日本の貿易の問題に気付き、これからの貿易の進め方について考えている。 【思考・判断】 (発表・ノート)

## 5 本時の指導 (2 / 5)

### (1) 本時のねらい

日本の自動車の外国での生産の様子を調べ、貿易による世界各国との結び付きや協力について考えることができる。

### (2) 本時の指導にあたって

〈仮説とのかかわり〉

手立て1 活用させたい「知識・技能」の明確化

- ・与えられた視点をもとにグラフや地図を読むこと。

手だて2 習得した「知識・技能」を活用して社会事象を解釈・再構成し、表現する学習活動の位置付け

- ・前時までの学習を生かして自動車の海外生産が増えたわけについて予想を立てさせる。
- ・自分の調べたこと、考えと友達の発表を比較して事象の意味を考えさせる。

手立て3 学びのよさに気付く評価活動

- ・終末において、ねらいに沿った観点での自己評価と気付きによるふりかえりを行う。

(3) 展開

段階	学習内容・学習活動	支援の手立てと評価の観点	準備・資料
と ら え る  7 分	<p>1 学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内生産と輸出、海外生産のグラフの変化を読む。</li> </ul> <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>なぜ日本の自動車の海外生産が増えたのだろう。</p> </div> <p>【活用】手だて1</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの変化をとらえる。</li> <li>・資料から問題を見出す。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本は自動車生産がさかんであることや自動車生産を通してたくさんの国々につながりを持っていることを確認する。</li> <li>・1985年から後の国内生産や輸出台数の変化はどうなっていくかを予想させ、減少していくことを読み取らせる。</li> <li>・海外生産の変化を表したグラフを提示し、国内生産や輸出の変化とは逆の変化を示していることに着目させる。また、自動車の生産台数が減っているのではなく、海外生産を増やしてきていることを確認する。</li> <li>・海外生産工場がいろいろな国にあることを地図で確認する。</li> <li>・日本車であるのに海外で生産するのが増えているのはなぜかを考えることを課題としていくことを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト</li> <li>・グラフ</li> <li>・自動車の海外工場と現地での生産台数を示す世界地図</li> </ul>
ふ か め る	<p>3 予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外生産のよい点について考える。</li> </ul> <p>【活用】手だて2</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かして自分なりの予想をもつ。</li> </ul> </div> <p>4 自動車の海外生産が増えている理由について調べる。</p> <p>視点「海外生産のよい点」</p> <p>5 調べたことを交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の人たちが仕事につけると何がよいのか。</li> <li>・現地で作った自動車をどうするのか。</li> </ul> <p>【活用】手だて2</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の調べたこと、考えと比較して事象の意味を考える。</li> </ul> </div> <p>6 これから日本はどんなこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外生産が増えるのは、何か良い点があるからだということをおさえる。</li> <li>・前時までの学習を生かした予想を立てさせる。</li> <li>・教科書に下線を引かせる。</li> <li>・読み取りが難しい児童には、海外工場があるとどんないいことがあるか考えさせ、海外生産が増えてきた理由をとらえさせる。</li> <li>・現地の人たちが就労できること、現地の材料や部品を使用することのよさを考えることができるようにする。</li> <li>・現地で生産した自動車をどうするのかについて発問し、現地の産業に与える影響を考えることができるようにする。</li> <li>・海外生産が進む前には「貿易摩擦」があったことを資料として提示し、「つりあいのとれた貿易」を目指して進められていることをおさえる。</li> <li>・グラフは将来、どのように変化していくこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> <li>・社会科資料集</li> <li>・貿易摩擦の写真</li> <li>・教科書「青</li> </ul>

33分	<p>に気を付けて自動車作りを行っていけばよいか考え、話し合う。 視点「人」「外国とのつながり」</p> <p>7 課題のまとめをする。 【評価規準Bの例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>つりあいのとれた貿易をするために自動車の海外生産が増えた。これからの自動車づくりは、外国と協力し合っていかなければならない。</p> </div>	<p>が望ましいか考えることで貿易は一方向でなく、双方向で進めることが大切であることをおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価規準】（評価の観点：思考・判断） 自動車を海外で生産することのよさをもとに、これからの自動車生産の進め方について考えている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">《具体的評価規準》 B</td> <td style="width: 50%;">努力を要すると判断された児童への具体的な手立て</td> </tr> <tr> <td>これからの自動車生産の進め方について海外生産のよい点をもとにしてノートに書いている。</td> <td>板書のキーワードや友達の発表をもとにまとめを書けるように支援する。</td> </tr> </table> </div>	《具体的評価規準》 B	努力を要すると判断された児童への具体的な手立て	これからの自動車生産の進め方について海外生産のよい点をもとにしてノートに書いている。	板書のキーワードや友達の発表をもとにまとめを書けるように支援する。	山さんの話
《具体的評価規準》 B	努力を要すると判断された児童への具体的な手立て						
これからの自動車生産の進め方について海外生産のよい点をもとにしてノートに書いている。	板書のキーワードや友達の発表をもとにまとめを書けるように支援する。						
まとめ 5分	<p>8 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価をする。</li> <li>・気づきをまとめ発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気づきを広めることで、学びの良さに気付かせる。</li> </ul>					

#### (4) 板書計画

なぜ日本の自動車の海外生産が増えたのだろう。

これからの自動車の貿易はどうしたらよいか。

海外生産のよさ

- ・現地の人が仕事につける
- ・現地の材料や部品を使える
- ・生産した自動車を輸出できる  
→産業の発展
- ・技術が伝えられる

海外生産の原因

日本の貿易←外国の不満  
↓  
つりあいのとれた貿易

資料

- ・日本（自分たち）のことばかり考えてはダメ
- ・現地の人の習慣を理解する
- ・現地の環境を守ることを考えた工場
- ・**お互いに協力し合う**

つりあいのとれた貿易をするために自動車の海外生産が増えた。これからの自動車づくりは、外国と協力し合っていかなければならない。